

これからは技術開発の時代とよく言われているが、技術開発には、長期的視点に立ったもの、中期的なものおよび当面必要なものと分けて対応する必要がある。企業における技術開発も、今後はその位置付けを明確にし、対応する必要があると考える。

本論では、第一線事業場から見た技術開発について、若干述べてみたい。

第一は、現在販売活動を積極的に実施しているが、お客さまの立場に立った電気利用技術の開発スピードを早める必要があると考える。販売活動は常に他のエネルギー産業との競争であり、お客さまの立場からすれば選択の時代であることは間違いない。

われわれの販売は店頭において、お客さまに来店いただき商品を販売するのではなく、お客さまへ出向いて相談するところに、一般の販売とは異なった大きな差がある。これは、お客さまが現在使用されている温水器やその他の電気製品について、いろいろ使用されてのご意見あるいは今後どのようなものを求めているのか、また当社が力を入れている諸施策をどのように受け止めておられるか、直接聞き取れるからである。

すなわち、第一線事業場は常に直接お客さまと接し、お客さまのご意見、ご要望を承る窓口として、数多くのマーケット情報を入手できる機能を有している。

従って、技術開発部門としても、この第一線事業場の機能を十分に活用していただくことが非常に重要なことと考える。

一方、今後10年、20年先を考え、これら数多くのマーケット情報の中から、お客さまニーズを先取りし、さらにはお客さまニーズを自ら作り出していくような機器の開発も重要となってくることは明らかである。産業構造、

技術開発と 第一線事業場

●
常務取締役 名古屋支店長

横田 廣

Research and Development and Marketing Strategy

●
Managing Director, General Manager of
the Nagoya Regional Office

Hiroshi Yokota



就業構造、消費構造等の変化はもとより、高齢化社会の進展、女性の社会への進出、身体障害者のケア等に対応した商品の開発等、お客さまの立場に立った、さらに一層実践的で、電力有効利用に結び付く研究に期待したい。このためには、技術開発部門に携わる人は常に第一線事業場と連絡を密にし、お客さま情報を詳細に把握することが必要であると考えます。

第二は、電力供給用の設備や機器の開発に当たっては、信頼性の向上、総合的なコスト・ダウンとともに、これらを扱うのは数多くの現場の人々であ

るということを常に念頭において実施することが大切であると思う。第一線事業場は、常に数多くの人々が発電・変電・送電・通信・配電設備等の工事・保守・運営を行っており、24時間膨大な電力設備と直接接している。従って、これらの現場の人々がその機器等を理解し、どの程度まで使いこなせるかどうか、教育効果と相まって総合的に検討し、いたずらに新製品の開発・導入に走ることが良いかどうか見極めることも大切なことと思う。

また、一部の製品がいかに立派であっても、システムとして全体のバランスがとれていることも重要なことと思う。一方、一つの製品においても、数多くの部品の組み合わせによってできているのであり、各々の部品の寿命がバランスがとれているかどうか、トータルの機器・製品寿命の延伸に結び付き、ひいてはコスト・ダウンにつながることも常に念頭におく必要があると思う。このためにも、常に現場で実際に取り扱う人々の意見を十分にくみとっていただき、効果的な機器開発システムの構成に結び付けて欲しいものである。

技術は究極のところ人間の生活を豊かにするとともに、利便を与え、人間社会に住みよい方向性をもたらすものであるとするならば、その開発も基本的にはその方向に向けられるものであり、われわれ電気事業にとっても多少の差はあっても、その本質は変わらないものと思われる。そのためにはできる限りの情報・ニーズを把握し、その上に立って計画・立案することが何にも増して重要なことと思われる。

昨年の組織改定で新たに技術開発本部が発足したが、名実とも当社の技術開発の中核として、今後ご活躍されることを年頭に当たり、特にお願ひ申し上げたい。